

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	東京海上日動火災保険株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	東京都千代田区大手町二丁目6番4号
工場等の名称	名古屋東京海上日動ビルディング
工場等の所在地	愛知県名古屋市中区丸の内2-20-19
業種	金融業、保険業
業務部門における 建築物の主たる用途	事務所
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	損害保険業
計画期間	令和3年4月1日 ～ 令和6年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和5年7月18日 ～ 令和5年10月16日		
公表方法		掲示 閲覧	（場所） 東京海上日動について > サステナビリティ > 地球温暖化対策計画 > 名古屋
	○	ホームページ	（HPアドレス） https://www.tokiomarine-nichido.co.jp/company/sustainability/archive_01.html
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-201-4450		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

当社では環境理念・環境方針を以下の通りに掲げ、地球環境保護の取組みを行っています。

【環境理念】

当社は、地球環境保護を経営理念の一つに掲げており、地球環境保護が現代に生きるすべての人間、すべての企業にとって重要な責務であるとの認識に立ち、企業活動のあらゆる分野で、全社員が地球環境との調和、環境の改善に配慮して行動し、ステークホルダーと共に持続的発展が可能な社会の実現に向けて取り組めます。

【環境方針】

当社は、以下の環境方針を定め、すべての事業活動を通じてその実現に取り組めます。

- (1) 保険事業を通じた地球環境保護と生物多様性の保全
- (2) 環境負荷の低減
- (3) 環境関連法規の遵守
- (4) 持続的環境改善と汚染の予防
- (5) 環境啓発活動と社会貢献活動の推進

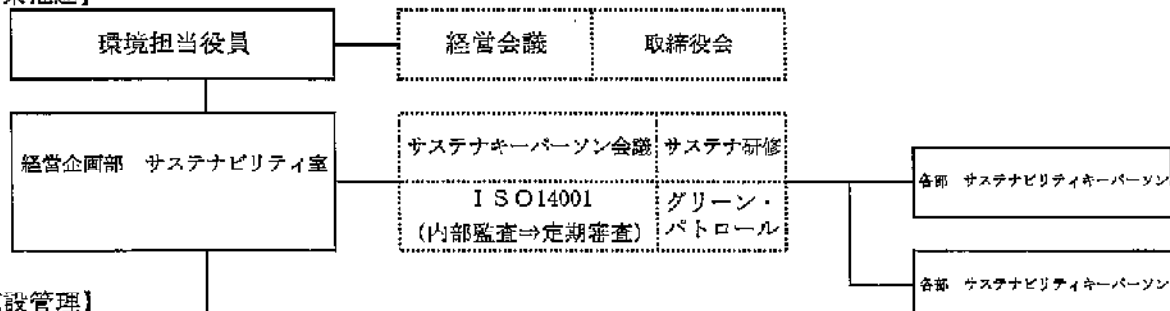
再エネの導入・利用に関する取組みについて：

当社では、洋上風力発電・太陽光発電・地熱発電事業者向け専用の保険・サービスを提供することで、再生エネルギーの普及を支援するとともに、グリーン電力証書購入等を通じ、再生エネルギー促進に向けた取組みを行っています。

(2) 地球温暖化対策の推進体制

当社では、本店において1999年度からISO14001規格の環境マネジメントシステムに基づいて、PDCAの実行による地球環境保護の取組み推進と継続的な取組み改善を図っています。ISO14001認証に基づく環境対策の推進体制は、以下の通りです。

【対策推進】



【施設管理】

コーポレート運用部
東海・北陸エリアサービス部
東京海上日動ファシリティーズ

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 4 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,032	t-CO ₂
(温室①を除外炭素換算)	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	2,032	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 2 年度		令和 5 年度		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度		
温室効果ガス総排出量	2,096	t-CO ₂	2,033	t-CO ₂	1,994	t-CO ₂	2,032	t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対基準年度）			3.0	%	4.8	%	3.0	%	%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対基準年度）						%	%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 2 年度		令和 5 年度		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度		
原単位あたりの排出量									
削減率（対基準年度）				%		%	%		%
原単位あたりのみなし排出量									
削減率（対基準年度）						%	%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

令和4年度は前年対比で増となったが、目標の削減率3.0%と同水準となりほぼ達成することができている。令和3年度はコロナ禍の影響があり、一時的に消費エネルギーが大きく下がったものと考えられる。令和5年度は更なる削減に向けて努力するところであるが、猛暑が予想されており、夏場の電力消費量増が懸念される。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の推進	空調の可動時間（基準階）については、一定の時刻に自動停止制御を実施し、空調の短縮化を実施。	エネルギー消費の抑制。	1階に電力使用実績をグラフ化して周知する設備を設置して省エネ意識を向上させている。
省エネルギー・省資源の推進	Low-eガラス（高遮熱複層ガラス）とダブルスキン（二重サッシの内側にブラインドを設置）の採用により、空調負荷を軽減。	エネルギー消費の抑制。	Low-eガラス（高遮熱複層ガラス）とダブルスキン（二重サッシの内側にブラインドを設置）の採用して空調負荷の軽減を行っている。
省エネルギー・省資源の推進	外気をオフィスに取り込む自然換気扉を設置。	エネルギー消費の抑制。	自然換気によりエネルギー消費の軽減を行っている。
省エネルギー・省資源の推進	空調機の定期的なメンテナンス（フィルター清掃等）を実施し、省電力で機器能力が発揮できるよう管理。	エネルギーを高効率化させる。	毎年2回フィルター清掃を実施することにより、省電力及び空調効率向上を図っている。
省エネルギー・省資源の推進	電動ブラインドにて、太陽光センサーによるスラット制御と共に、季節毎の太陽位置設定の反映により、最適な日照と空調負荷軽減を自動制御。	エネルギーを高効率化させる。	太陽光センサーによる電動ブラインドのスラット制御を行い、季節毎の太陽の位置を反映して空調負荷の低減を図った。
省エネルギー・省資源の推進	全館に長寿命のLED照明を採用すると共に、人感センサー・調光センサーを採用。	エネルギーを高効率化させる。	LED照明、照明用の人感センサー・調光センサーを設置して照明エネルギー消費の軽減を行っている。
省エネルギー・省資源の推進	基準階共用部照明にて、お客様のご迷惑にならない範囲で照明を日中から消灯し、電力負荷の軽減を実施。	エネルギー消費の抑制。	照明器具を間引きすることにより、照明負荷の低減を図った。
省エネルギー・省資源の推進	手洗い温水器や暖房便座の冬季以外停止や、ウォッシュレットの温水温度最適化により、電力負荷を軽減。	エネルギー消費の抑制。	手洗い温水器や暖房便座を冬季以外停止することにより電力負荷の低減を図った。
省エネルギー・省資源の推進	昼休み・夜間の無人場所の照明を消灯	エネルギー消費の抑制。	昼休み、夜間の無人場所の照明を消灯することで、エネルギー消費の低減を図った。
省エネルギー・省資源の推進	退社時や外出時のパソコンや事務機器の主電源OFF	エネルギー消費の抑制。	社員のパソコンをデスクトップPCからノートPCに入替えたことで、エネルギー消費の低減を図った。
省エネルギー・省資源の推進	パソコンや事務機器導入時には、消費電力の少ない機器を選定	エネルギー消費の抑制。	令和2年度に省エネ対象のデスクトップPCに替えるを実施、社員にはノートPCを配布し、エネルギー消費の低減を図った。
省エネルギー・省資源の推進	「建物エネルギー管理システム(BEMS)」にて、省エネ状況を監視して制御を自動化。建物全体のエネルギー消費を最小化。	エネルギー消費の抑制。	共用部の空調の設定温度を調整する等してエネルギー消費の低減を図った。
省エネルギー・省資源の推進	太陽光発電装置を設置し、外構の電力の一部として活用。（1階に電力使用実績をグラフ化して周知する設備を設置し、省エネ意識を向上）	エネルギー消費の抑制。	太陽光発電装置にて昼間の電力を蓄電して夜間に外灯で利用する事でエネルギー消費の低減を図った。
省エネルギー・省資源の推進	換気装置（ロスナイ）での熱交換により空調負荷を軽減。	エネルギー消費の抑制。	換気装置（ロスナイ）を使用することで、外気取り入れ時に室内空気と熱交換することでエネルギー消費の低減を図った。
省エネルギー・省資源の推進	アモルファス変圧器の採用により、エネルギー損失を軽減。	エネルギー消費の抑制。	アモルファス変圧器を使用してエネルギー損失を軽減することによりエネルギー消費の低減を図った。
自動車における取組	業務における公共交通機関や自転車の利用促進	自動車利用の抑制。	移動手段を公共交通機関や自転車等を利用することにより、社有車の使用の抑制を行った。

自動車における取組	車輛の燃費管理、急発進・急加速しない、アイドリングストップの励行。	自動車からの排出ガスの抑制。	車輛を効率の良い運転を行うことで、燃費の向上、排出ガスの抑制を行った。
自動車における取組	タイヤの空気圧などこまめな点検・整備。	自動車からの排出ガスの抑制。	タイヤの空気圧などのこまめな点検をすることで、自動車からの排出ガスの抑制を行った。
自動車における取組	エコ安全ドライブの推進。	自動車からの排出ガスの抑制。	エコ安全ドライブをすることで、自動車からの排出ガスの抑制を行った。
自動車における取組	次世代自動車の導入。	自動車からの排出ガスの抑制。	次世代自動車(ハイブリット車、電気自動車、プラグインハイブリット車、水素燃料車)を導入して自動車からの排出ガスの抑制を行った。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目（令和 4 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）
2013年度	太陽光発電	外溝の一部の電力として活用

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 2 年度目（令和 4 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

【再生可能エネルギーの利用】 太陽光発電を利用した設備の導入
【水資源の有効利用】 ①凝音装置の設置②雨水貯留タンクや雨水利用施設の設置
【廃棄物の排出抑制】 ①両面印刷による紙使用量の削減②社内イントラネット活用によるペーパーレス化の促進③分別BOXの設置
【森林の保全・緑化の推進】 ①グリーン購入の推進②マングローブ植林
【自動車利用の抑制】 通勤は公共交通機関が基本
【環境教育】 ①全社員に対し定期的に「サステナ研修（e-learning形式）」「ニュースレターによる情報発信」等を行い、資源・エネルギーの効率的な利用に向けた意識啓発活動を実施。 ②子どもたちへの教育・啓発活動」を重点領域として、みどりの授業を実施。

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

環境保全の日としての取組みではないが、社員と会社の持続的な成長を目指し ・毎月1回、完全定時退社Dayを設定し、定時退社に努めた。 ・Go Go Challenge Day（週1回17：30終業）」を通年取り組んだ。
--